

附属坂出小学校百周年、ごあいさつ

学校長 藪添 隆一

百年とはどのような月日の長さなのでしょうか。

長寿百歳以上の方々も少なからずいらっしゃることを思えば、百周年を迎える小学校としては、人生の最年長者の仲間入りをする資格を得ようとしている人をイメージしてもよいかもしれません。

学校は主として知識を与えるところです。しかし、知識は不足すると偏見を生みます。知識量が増え、集積されて膨大なものとなる時、知恵が生まれます。

この「知恵」は極めて個人的な人格の中に血肉化します。それは個人的な無意識と似ています。

無意識といえば、その発見者としてフロイトが有名です。しかし、その弟子だったユングは、無意識のさらに深部に「集合的無意識（普遍的無意識）」を想定しました。普遍的無意識の領域には人類普遍のイメージが眠っています。これらは、人類の根底にある「知恵」なのです。

さて、東洋では古来、知恵者のイメージとして「仙人」に代表される老人のイメージが想定されています。百歳ほどの老人は、人類を導く知恵者、老賢人として東洋の宗教画、水墨画などに描かれています。

附属坂出小学校は百周年を迎えます。そこに学ぶ子どもたちは常にフレッシュです。その新鮮さは、膨大な教育的知識によって生まれた教育的知恵に育まれているのです。

さらなる知恵の学び舎として、私たちは百年の歴史と先人の支えに感謝しつつ、教育実践と研究と後進の指導育成に努めたいと思う次第です。

## 香川大学教育学部附属坂出小学校創立100周年によせて

100周年実行委員会  
実行委員長 神余智夫

平成24年度、香川大学教育学部附属坂出小学校は、創立100周年を迎えます。大正2年の創立以来、戦時中の窮状など、幾多の試練を乗り越えて、ようやくたどり着いた100周年です。これまでの伝統を築いてこられた卒業生、教職員の方々、大学関係者の方々、そして、保護者の方々に心から敬意を表します。また、永きに渡って学校を支えていただいた地域の方々に、深く感謝いたします。

さて、100周年を記念し、実行委員会は次のことを基本方針として、様々な行事に取り組みます。

- ① 子どもたちが、100周年を迎えることのすばらしさを認識し、自分の可能性や自信を新たに持つきっかけにすること
- ② 卒業生、保護者、大学関係者や教職員OBの方々に、改めてこの小学校を振り返ってもらい、学校の価値を再発見し、更なるご支援を得られるようにすること
- ③ 地域の方々に、100周年を迎えられたことを感謝すると共に、今まで以上に、附属への理解と協力を得られるような環境を向上させること
- ④ 100年の足跡を記録としてしっかり残しておくこと

以上の基本方針の下、昨年から、式典、記念誌、記念行事の企画や、事務局などが動き始めました。そして、保護者が主体となる記念行事も、広く保護者スタッフを募りながら、多彩に実行していきます。

関係者一同、100周年という大きな節目を充実した一年にするために、精一杯取り組んでまいります。そして、次の100年間も、児童の教育・教員の養成・教育研究・地域発信について、更なる高い成果実現を目指し、関係者一同で協力していきます。

今後共、附属坂出小学校に、ご理解、ご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。



この100周年記念シンボルマークは、5年東組の山地 宥範さんと4年西組の岩井 結さんのアイデアをもとにして作成したものです。

このシンボルマークには、次のような願いがこめられています。

- ・これまでの伝統を受け継ぎ、これからの未来をまっすぐに見つめる「目」
- ・情熱を表す「赤」、希望の光を表す「黄」、瀬戸の穏やかな海を表す「青」、豊かな自然を表す「緑」
- ・100周年を表す「100の縁取り」
- ・附属坂出小学校をみんなで応援していることを示す「旗」
- ・たくさんの人がつながって100周年を迎えることを示す「人の輪」
- ・現在の学級数を表す「12人の人」

今後も諸先輩方が築き上げてきた素晴らしい伝統を受け継いでいくとともに、創立100周年をステップにして、益々飛躍していきたいと思っております。今後もより一層のご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

100周年記念事業実行委員会